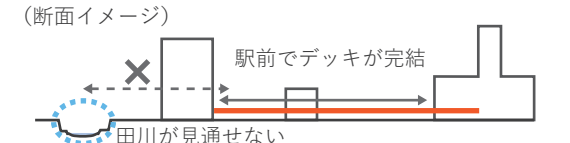
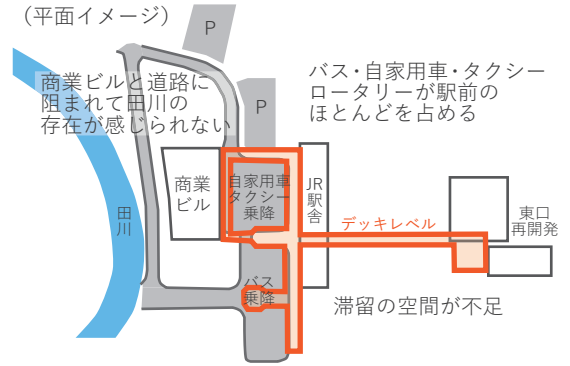


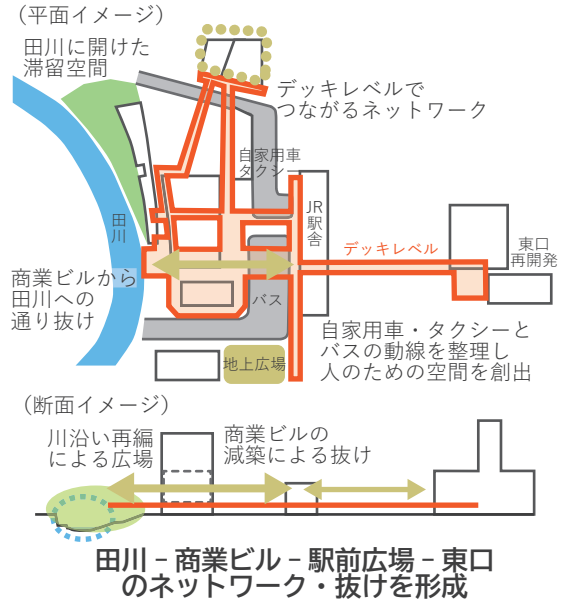
JR 駅西口を “ときめきスクエア” へ

交通空間が拡大し街の魅力が見つげられた西口を、抜けの空間やデッキネットワーク整備により、ときめきが生まれる場所に再編。

【現状】車のための空間から転換が必要 (平面イメージ)



【提案】ときめきが生まれる駅前へ (平面イメージ)



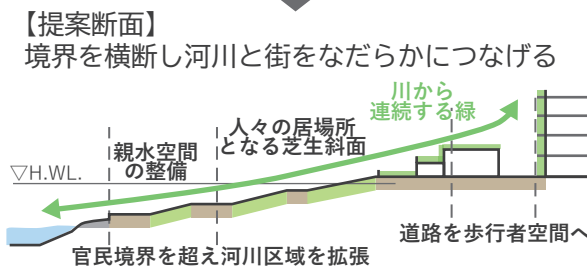
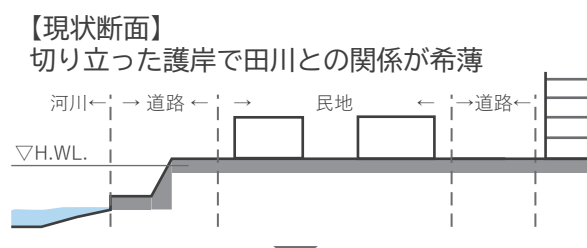
田川パーク 緑の安らぎと川辺のアクティビティのときめき

川辺空間の再編により川と街の関係を再構築 宇都宮の自然豊かなときめきを生み出すオープンスペース「田川パーク」を創出

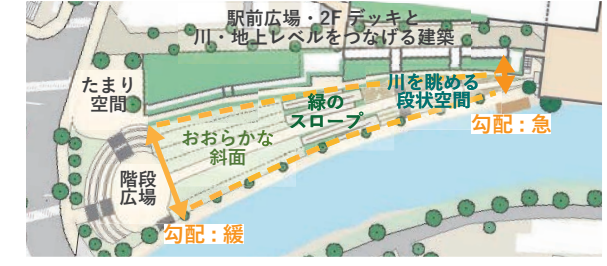


〇川と街との関係をつくる

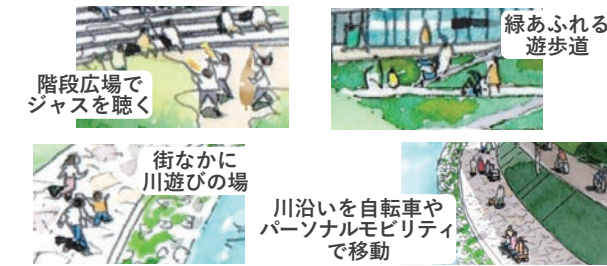
駅西口の骨格である田川を表の空間とするため、河川・道路・民地の境界をまたぎ再編。川に対して開けた空間を生み出す。



〇川辺の居場所づくり



田川と既存街区との距離・勾配に応じて、ゆったり過ごす斜面や緑を眺めながら歩くスロープなど様々な場所を設け、多様な過ごし方ができる。

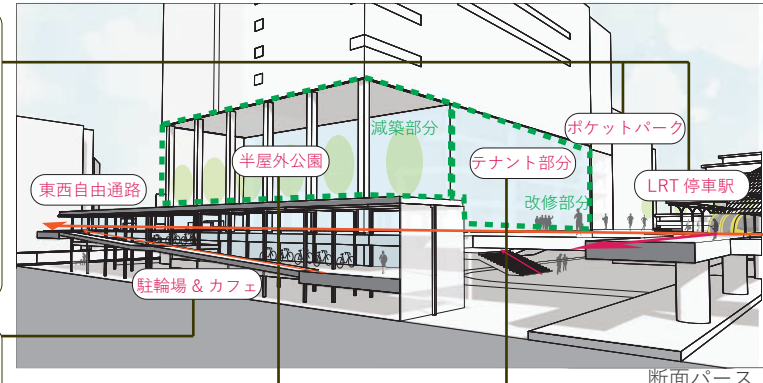


駅前広場 まちに一步踏み出す期待ふくらむときめき

既存商業ビルを活かした空間の抜けにより駅に降り立つ人々に新たなときめきを多様なモビリティが安全に行きかう 交通結節機能と滞留空間を融合させた広場

〇街の新たな玄関口

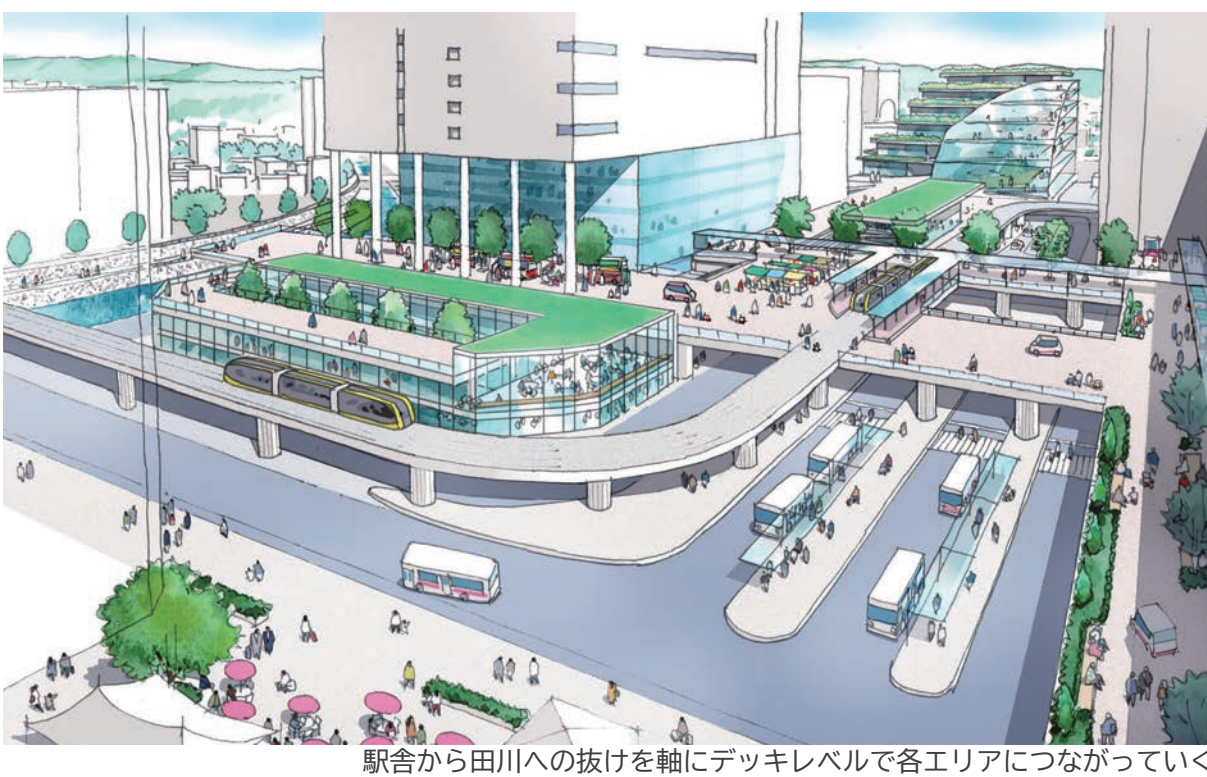
駅西側広場には新たに LRT の停車駅を設置し、センターコアへの玄関口へ。スローモビリティや人が行きかう広い空間とポケットパークを設けることにより、人々の集うオープンスペースとなる。



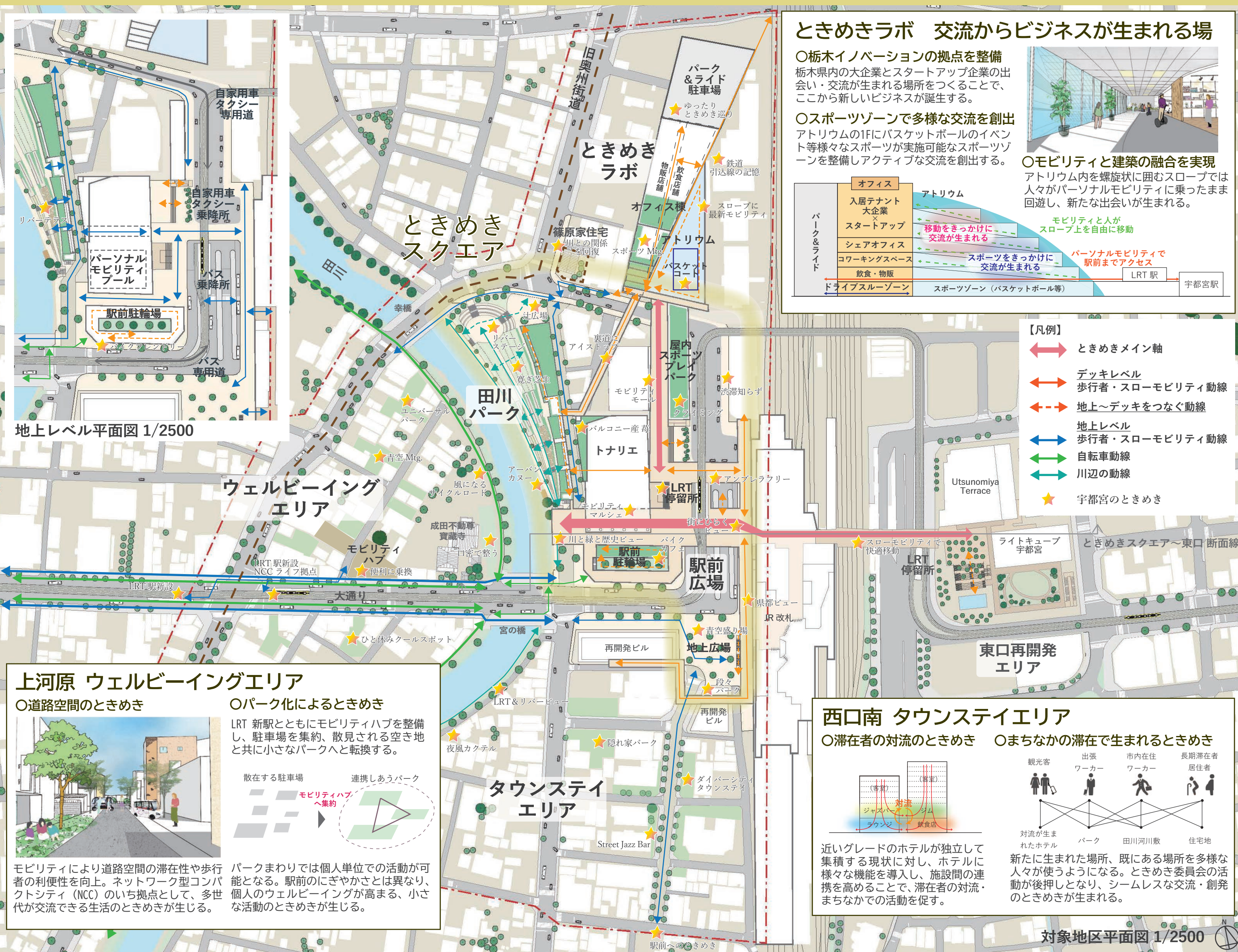
〇街と観光客の接点を創る

再開発エリアに駐輪場兼カフェを併設する。スロープによって LRT 乗り場への移動をスムーズにし、出発の準備をする拠点となる。

〇既存価値を高める
トナリエの一部を減築して東西自由通路を田川へと延長し、半屋外公園へと整備する。低層階はガラスファードに改修することで風景に溶け込み親しみのある空間となる。



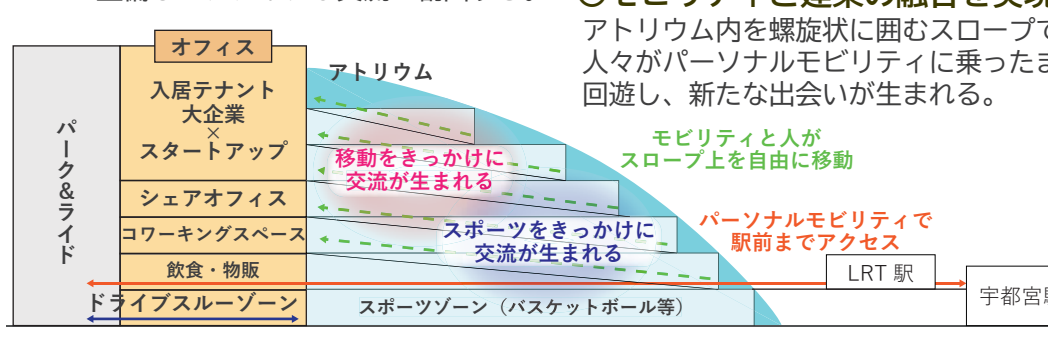
駅舎から田川への抜けを軸にデッキレベルで各エリアにつながっていく



ときめきラボ 交流からビジネスが生まれる場

〇栃木イノベーションの拠点を整備
栃木県内の大企業とスタートアップ企業の出会い・交流が生まれる場所をつくることで、ここから新しいビジネスが誕生する。

〇スポーツゾーンで多様な交流を創出
アトリウムの1Fにバスケットボールのイベント等様々なスポーツが実施可能なスポーツゾーンを整備しアクティブな交流を創出する。

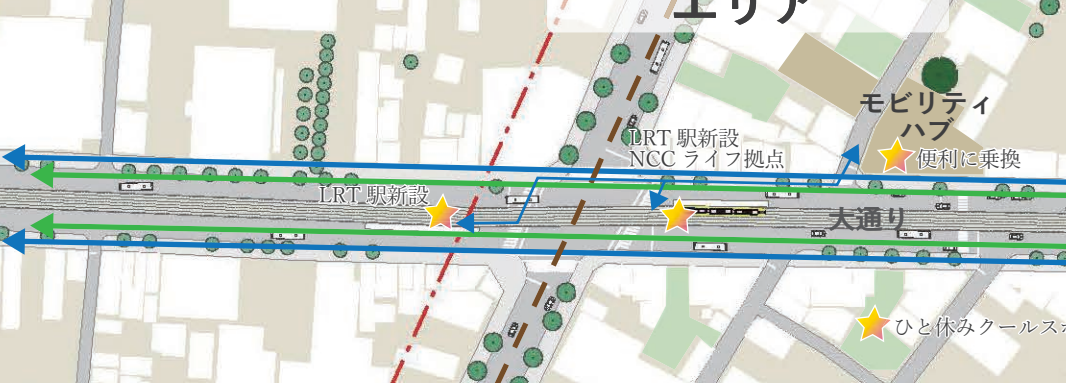


〇モビリティと建築の融合を実現
アトリウム内を螺旋状に囲むスロープでは人々がパーソナルモビリティに乗ったまま回遊し、新たな出会いが生まれる。

モビリティと人がスロープ上を自由に移動
パーソナルモビリティで駅前までアクセス
LRT 駅

地上レベル平面図 1/2500

ウェルビーイングエリア



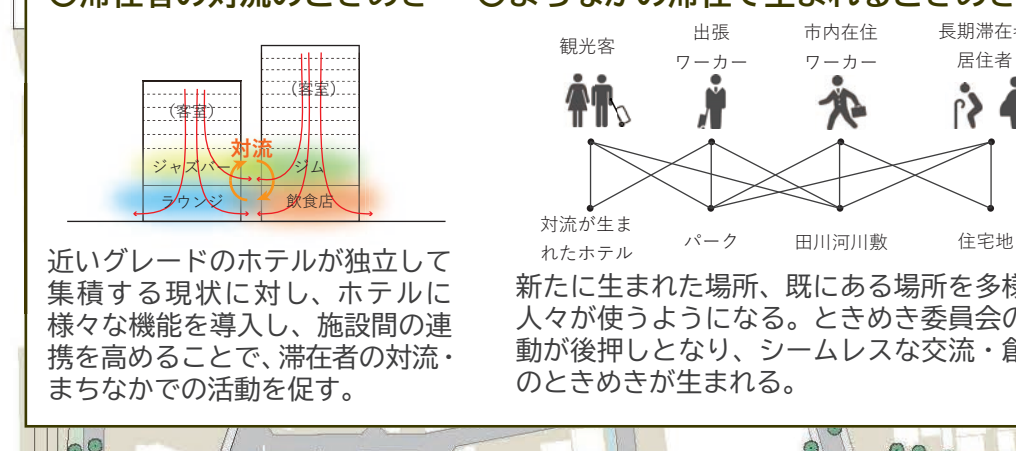
上河原 ウェルビーイングエリア



タウンステイエリア



西口南 タウンステイエリア

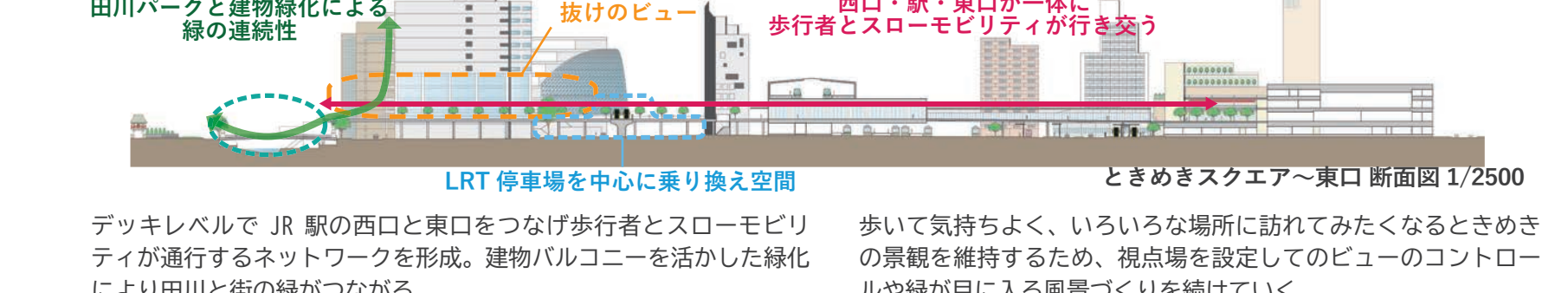


ときめきの景観づくり

各エリアのときめきへ誘う通り抜けのビュー
デッキ上を歩いていると気持ちよく視線が抜け、楽しそうな場所が目に入る。動線に合わせて視界が開ける場所やアイストップとなる建物を計画することで、ときめきを生む風景をつくる。



周辺とつながるネットワーク



デッキレベルで JR 駅の西口と東口をつなげ歩行者とスローモビリティが通行するネットワークを形成。建物バルコニーを活かした緑化により田川と街の緑につながる。

歩いて気持ちよく、いろいろな場所に訪れてみたくなるときめきの景観を維持するため、視点場を設定してのビューのコントロールや緑が目に入る風景づくりを続けていく。